

小学校における学際的なアストロバイオロジー教室の取組み

Report on the Astrobiology Class at a primary school

笠原 慧 [1]; 豊田 文典 [2]; 成田 憲保 [3]; 村山 真紀 [4]; 本間 典子 [5]

Satoshi Kasahara[1]; Takenori Toyota[2]; Norio Narita[3]; Maki Murayama[4]; Noriko Homma[5]

[1] 東大/理/地球惑星科学 (ISAS); [2] 東大・理・地惑; [3] 東大・理・物理; [4] 立教大学・理・CBLs; [5] 東大・院・医・細胞生物学

[1] Earth and Planetary Sci., The Univ. of Tokyo; [2] Earth and Planetary Sci., Univ. of Tokyo; [3] Dept. of Physics, The University of Tokyo; [4] CBLs, Rikkyo Univ; [5] none

2007年11月から2008年2月にかけて小学校で展開した、アストロバイオロジー教室について報告する。アストロバイオロジーは、天文学や惑星科学、生物学といった幅広い研究分野にまたがる学問であるため、話題が豊富である。教育カリキュラムの中で断片的に学習せざるを得ない各科学分野の内容を、「宇宙と生命」という大きなシナリオの中で融合させて語る事ができるのが、アストロバイオロジー教育の大きな特長である。本活動は、アストロバイオロジーを題材とし、様々な研究分野の若手研究者が協力して行う、萌芽的な科学教育の試みであり、2005年から活動を行っている。今回は埼玉県草加市立八幡小学校の5年生を対象に授業を行った。今回の試みの特色として、(1) 壮大なストーリーを6回のシリーズとして3ヶ月にわたって伝えた事、(2) 学校固有の教育方針に配慮した授業案を組み立てた事、(3) 大学院生が中心となって授業案を作成し、授業を行ったこと、(4) 研究者側がゲストとして話すだけでなく先生も授業を行った事、(5) 各回とも小学校の総合学習の時間を利用し、5年生全員(5クラス、全161人)に授業を行った事、などが挙げられる。これらの特色について解説しながら、今回のアストロバイオロジー教室活動全体を紹介し、さらに、今後の可能性についても考察する。